

授業科目名： スポーツ原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神野 周太郎 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標 （１）「体育・スポーツとは何か？」という問いから出発し、その歴史、概念、価値や意義について総体的な理解を深め、現代における体育・スポーツの在るべき姿について考えられるようになる。 （２）最終的に、体育・スポーツに共通する「人間が運動すること」にどのような意味があるのか、そして「体育・スポーツとは何か」という問いに対して、自分なりの言葉で回答できるようになる。			
授業の概要 「体育・スポーツとは何か」という問いを背景に、体育・スポーツに関わる様々な事柄(体育授業、身体運動、運動技術、勝敗、運動部活動、体罰等)を問い直し、それに関する認識の深化を図る。なお、リアルタイムスクーリングにおいては、ディスカッション、グループワークなどを導入し、体育やスポーツに関する情報の共有、思考の深化を図る。			
授業計画 第1回：スポーツとは何か 第2回：体育とは何か 第3回：教科としての体育の成り立ち 第4回：身体教育という考え方 第5回：「運動を指導する」ための考え方 第6回：身体文化教育という考え方 第7回：体育・スポーツ指導者 第8回：スポーツ指導の問題性 第9回：競技者の世界と理想の姿 第10回：オリンピックと世界平和 第11回：スポーツのルールを考える 第12回：スポーツにおける美しさを考える 第13回：コミュニティとスポーツをめぐる諸問題 第14回：スポーツと人間との良好な関係を考える 第15回：人間が運動することの教育的意味 定期試験			
スクーリングでの学修 「人間が運動すること」は、その切り取り方により様々な解釈が可能となる。従って、スクーリングでは、第1～15回の内容を横断的に取り扱いつつ、「人間が運動することの教育的意味」を考える。			
テキスト 高橋 徹（編）『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』（みらい）2018年			
参考書・参考資料等 参考書・参考資料等 （１）久保 正秋『体育・スポーツの哲学的見方』（東海大学出版会）2010年 （２）友添 秀則、岡出 美則（編）『教養としての体育原理 新版:現代の体育・スポーツを考えるために』（大修館書店）2016年			
学生に対する評価 レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）			